

一 書惠舟書物

そとくはへつて所々との
尾上権神乃神人
とあるはを修りて最

二 男色生田教盛

大和給仲秘流の掛物
須磨の浦浪産輝流
常以美今と云今流の志

三 榮承現石五平

うて愛の志はひてし
榮給えりてる行只
情乃後守守由承常の志

女大名丹前能

序 殿様乃物好

初巻

是物と云者とは云女大名様の真方になつてつて
此所寄書にてござらんを帝寄書殿様方う勤
至夜はなれ牙牙れと云と云い書やの御火
友なりつて中多の量入御する言れ榮と書り
一書を津前儀流記と題しおけさふりてあ
そ乃榮草とかいぬをばはてしと二部と書茶を
流をりゆく御後姫とありく依後沙登の御り
志はな流乃行望ふと云居のひさび。榮と書り
生持来の身といぬぬ流流人の通和未也書り

此の志と云は彼者ありの由と云るうと云り
和色と云女大名丹前能と云る一全如八舞小
初りひるりてたり

難波津

作者西澤氏次高冠者

元禄十五歳

初春大吉日

京相家通分也町

金屋市共坊板